

# 9がっのくもの子の会だより

〈H.26.8.22〉

今年の夏は、日照不足で、じとじとしたおし暑さが続き、なんと  
すきりない天気が多くて、カンカンとリッける真夏をあまり感じないまま、  
秋をおかえりの気がしますわ...。各地で、雨が、土砂災害など、  
小さい子どもたちの死生のニュースなども多く、胸がいたみます。改めて、  
自然の環境の変化と、こわさを感じます。

おだやかな秋晴れの下で、さる秋がくるといいますわ。  
～ 早く教えると将来どうなる？ 教えないと？ ～

〈早期教育でできないこと〉

子どもは教えられるほど知識を吸収していきいます。文字も算数も  
ある時期にはおもしろいように覚えていくことができます。

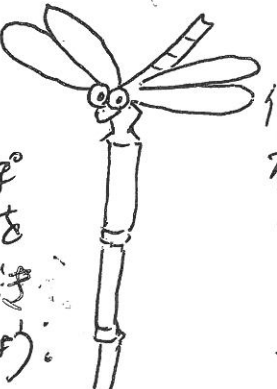
しかし、そこに重大な欠陥があります。それは、経験しなければわからない  
はその時期には理解できないという事実です。

子どもに春というのを理解させようとして、春に咲く花は、桜、すみれ、たんぽぽ  
れんげ、春になるとちゅうちゅうがとんで、かえるも冬眠から覚めて...といったことを  
教えるのは、子どもは「春」という言葉をきいただけでいろいろなことをイメージでき  
ますから、作文を書かせれば、大人を感心させるものを書くことはできるため  
でも、実際の体験がなければ、たんぽぽのわた毛のちゅうちゅうがとんで、たい  
感触も、かえるのおもしろいしくさも理解できません。しかも、ほんとうのことが理解  
できていないのに、本人はわかった気になってしまふのです。(多岐略)

早期教育で有名な、た井深大氏が「すいぶん前」ですか、深い反省を  
書いておられます。「いろいろや、ていこううちに、ほんとうに必要なものは知的教育だ



まず「人間づくり」の「心の教育」だと  
気づいた。「言葉を覚える前に教育をせよ」と  
いふ不思議に思われるかも知れないが、五感  
運動や芸術の能力、信仰心、直観力などは、  
限りなく0歳に近い段階から養われる。言葉を  
話す前にたずと幼児でも頭が理解する。直観  
力などは育ちにくくなるが、言葉を覚える前  
に人間的なものを植えておけば、これからの  
日本は100%貧しい人間が大勢を占めてしまう。  
この井深氏の反省は、早期教育関係者からの  
発言として注目すべきものだと思えます。  
(0～3才個性を伸ばす  
能力を育てる)



乳幼児期からの早期教育については、私か  
い育士で働き始めた当初も盛んに行な  
れていたが、これも疑問と、ひかりがあり、  
早期教育についての勉強会にもあちこちと  
行きました。そういう園にも勤めたこともあり、現状も  
みてきました。井深氏がいわれたように、心  
の貧しい人間が大勢を占める。これは、早期教育  
により子どもにとって必要な遊びの時間がへり、  
いろいろな経験、体験不足の状況が影響  
していると思えます。早期教育だけが原因  
でもないと思えますが、そのせいで、大きな  
影響を与えているのではないかと...